

令和7年度の学校経営について、年度当初に示した学校経営方針の重点事項を中心に、学校評価結果等から点検・評価した内容を以下にまとめます。今年度の成果や課題を踏まえ、次年度も全教職員一丸となって子供たち一人一人の可能性を最大限伸ばす教育に取り組んでまいります。今後とも、本校の教育活動への御理解・御協力をよろしくお願いいたします。（*保護者による学校評価結果については、学校だより 2/13 号をご覧ください。）

1 今年度の取組への評価

(1) 令和7年度の重点目標への取組に関して

① SDGsの視点を軸としたカリキュラム・マネジメントによる学びの充実と社会参画意識の醸成

- ・児童・生徒の社会参画意識や実践力を育むため、今年度、授業はもちろん行事や児童・生徒会活動等のあらゆる教育活動において、SDGsを意識した取組を重点的に進めました。
- ・具体的には、8学年修学旅行における学習課題を「都市構想コンサルタントとして『未来の京都構想』を提案しよう」とし、京都や奈良を巡って後世に残すべき点や変えるべき点をまとめて提言するという学びを行ったり、児童・生徒会活動では執行部や各委員会でSDGsの取組としてできることを考え、ユニセフ募金やコンタクトレンズ回収などを行ったりと、具体的な行動に結び付く取組を行いました。
- ・児童・生徒にとってSDGsを自分事として考える機会が増え、未来を自分たちで創るという意識が少しずつ高まっていると感じます。今後も本校の学びの要として、SDGsの取組を強化してまいります。

② 9年間の系統的な指導による言語能力の育成を基盤とした学力向上と学習評価の充実

- ・昨年度に引き続き、言語能力の育成を学校全体の学びの基盤として位置付け、全教員が授業において「自分の考えの言語化」「伝え合うことによる学び合い・鍛え合い・高め合い」「学びの振り返りの位置付け」を共通実践し、授業改善を全教科で進めました。
- ・理科と保健体育科の研究授業・研究協議の実施や教員相互の授業参観週間の設定により、指導法の工夫が教員間で共有され、言語活動を計画的に位置付ける授業が増加しました。
- ・今年度は、夏休み明けに全児童・生徒が「俳句作り」に挑戦し、相互に作品を鑑賞し合って学年代表を選出し、代表作品をコンクールに出品しました。子供たちの言語感覚を豊かにするために、来年度以降も学校全体の取組として「俳句作り」を継続してまいります。

③ デジタルの効果的な活用によるリアルな学びの一層の充実

- ・東京都教育委員会や八王子市教育委員会の研究指定を受け、デジタルの効果的な活用を言語能力の育成とともに学びの基盤として位置付け、各教科等の授業における効果的なデジタルの活用方法を、全教員が年間をかけて追究しました。
- ・②で述べたとおり、理科と保健体育科の研究授業・研究協議の実施や授業参観週間の設定により、指導法の工夫が共有され、デジタルを効果的に位置付ける授業が増加しました。
- ・教師の指示がなくても児童・生徒が主体的にPCを活用する姿が、随所で見られるようになっていきます。

④ 発達支持的生徒指導による一人一人の可能性を応援する指導の充実(いじめ対応、登校支援)

- ・今年度も、児童・生徒に対し、朝会等で挨拶の重要性やいじめは絶対にだめであることを浸透させる講話を計画的に行うとともに、4月の保護者会で、本校ではいじめは絶対に許さないこと、少しでも心配なことがあれば「こども見守りシート」に記入して連絡してほしいことを、全学年の保護者に伝達しました。
- ・「いじめ対策委員会」「登校支援会議」を毎週開催し、児童・生徒の状況を共有して関係機関と連携した組織的な対応を進めました。特に、登校支援については、不登校対応巡回教員や校内別室指導支援員と連携し、校内別室「つながる一む」の利用など、一人一人に適したつながりづくりを進めました。
- ・児童・生徒が主体的に参加する全校挨拶運動を定期的実施することで、互いを認め挨拶し合う態度の育成や声を掛け合う雰囲気づくりを行いました。

(2) 教育目標の実現に関して

◇学力の保障・向上 ～9年間の学びの系統性・連続性を意識した授業の構築～

- ・市や国の学力調査結果等から児童・生徒の学習状況を把握し、一人一人に応じた指導を進めました。
- ・授業づくりにおいて、児童・生徒の興味・関心を高めるために、デジタルを活用した指導の工夫や異学年交流を位置付けて学力の定着に努めました。
- ・I期は、学ぶことへの興味・関心を高めて家庭学習の習慣を身に付けさせること、II期、III期は、教科担任制による専門的な授業の推進と個々の力を確実に伸ばすことを重視した授業を実施しました。
- ・英語、漢字、数学検定等各種検定、各教科におけるコンクール応募や作品出品等を奨励し、学びへの意欲を高めるとともに、地域と連携して放課後や長期休業日等の学習環境を整えました。

◇豊かな心の醸成 ～豊かな人間関係を築く力や社会性の育成～

- ・1年生から9年生までの縦割り班で行う「わくわく清掃」や「わくわく遊び」、大運動会、フェスティバル等の行事、児童・生徒会や各種委員会活動等において、異学年交流の場を意図的・計画的に設定し、発達段階に応じた役割と責任を自覚させ、リーダーシップとフォロワーシップに基づく活動を支援しました。
- ・社会貢献や思いやりをテーマとした道徳科授業や、期ごとの防災学習を位置付けた授業公開を土曜日に実施し、児童・生徒に自分と地域を大切にする心や態度を育みました。また、同日に保護者交流会を開催し、本校のキャリア教育について理解を促す取組を行いました。
- ・キャリア教育を柱とした9年間のカリキュラム・マネジメントを強化し、全体計画に基づいて地域訪問、社会科学見学、職業調べ、職場体験等を計画的に実施し、主体的に自己決定や進路選択ができる資質・能力、地域社会の中で他者と共によりよく生きる力を育みました。

◇心身の健康・鍛錬 ～心理的安全性のある集団づくりにより一人一人の居場所をつくる～

- ・心理的安全性のある学級・学年経営を行うことにより、児童・生徒の居場所づくりや一人一人が快適に学校生活を過ごせる環境整備を行いました。
- ・「子ども見守りシート」や「ふれあい月間」を活用し、いじめを許さない学校風土を醸成するとともに、いじめと思われる状況を発見した際には、いじめ対策委員会を活用して情報共有し、保護者や関係機関と連携して組織的かつ迅速な対応を進めました。
- ・3人のスクール・カウンセラーを中心とした教育相談体制を充実させ、スクール・ソーシャルワーカーや教育相談、外部機関とも連携し、一人一人に応じた心のケアを進めました。

◇学びを支える教職員力・学校力の強化

- ・デジタルの活用等による教材・教具の共有化を進めるとともに、校内研究を軸としたOJTの活性化による若手教員の人材育成、授業参観週間の設定による学び合いの雰囲気づくりの醸成、Off-JTとなる研修受講の奨励による「学び続ける教師」の体現を推進しました。
- ・ホームページに学校の様子や給食献立を毎日アップし、教育活動等を広く情報発信しました。
- ・就学前教育との連携として、図工や生活科等で保育園や学童保育所との交流を図る取組を実施しました。

2 次年度以降の取組

保護者の皆様からの学校評価結果を踏まえ、本校の特長を生かした教育活動を一層推進するとともに、以下の取組を通して学校に対する理解促進に努めます。

◆発達支持的生徒指導による一人一人の可能性を応援する指導のさらなる充実

- ・校務分掌組織を改編して「個別支援委員会」を新たに位置付け、個々の児童・生徒に必要な支援や合理的配慮等について検討し、関係機関と連携した一人一人の可能性を伸ばす教育を推進してまいります。また、毎週はいじめ対策委員会や登校支援会議、校内委員会をさらに計画的に運営し、いじめを許さない学校づくり、個別の指導・支援を組織的に行います。

◆キャリア教育を核とした9年間の系統的な指導による社会の形成者としての資質・能力の育成

- ・キャリア教育を核とした系統性・連続性あるカリキュラムにより、社会の形成者として他者と共に幸々に生きる力の育成を図るとともに、学びの基盤となる言語能力、情報活用能力を確実に育みます。
- ・児童・生徒会の委員会に新たに「SDGs 委員会」「緑化委員会」「デジタル委員会」を位置付け、主体的に学校や地域社会の課題解決を図る実践力を育みます。また、地域運営学校(コミュニティスクール)として地域やPTAと連携し、児童・生徒が地域の課題解決に参画できる機会を模索していきます。